

私とトランペット

加古川市立別府西小学校 五年 吉田 心美

私の少しさびたトランペット

姉が昨年まできれいな音を奏でていた

あこがれのトランペットを 今、私は奏でている

このトランペットを吹いていると

今までどんな人が、何人くらい

どんな音を奏でてきて、

どれだけ多くの感動を生み出したのだろう

何年生なんだろうと

ミステリアスな所が 魅力的に感じる

ピカピカの新しいトランペットも きれいで すてきだが

私はこのたくさんの思い出がつまった

少しさびたトランペットのほうがすきだ

音楽も同じだと思う

一人のきれいな音が響き渡るのもきれいだが

みんなで、ひとつの音を重ねて作っていく

音楽のほうが、わたしはすきだ

トランペットで思うように 音が吹けない

自分の思い描く音が うまく出ない

でも、みんなが自分の楽器でがんばっているから

私もあきらめずにがんばれる

私の音が みんなの音と合わさり

舞台の上で 合奏となると

とっても 気持ちがいい

それが、次への自信へとつながっていく

だから、私のさびたトランペットは

今まで使ってきた人のがんばりや自信が染み付いていて

私にパワーをくれている

私のがんばりが、次の人へとつながっていくのだろう

さびのある伝説のトランペットが

今は、私を支えてくれている

次のコンサートに向けて

私たちのトランペットで

舞台を盛り上げていきたい

